

第7節 九州大学教育学部吉本圭一主幹教授からの「成長分野等におけるプログラム開発のための4つの問い」について

本プロジェクトの実施委員であり、昨年度の本プロジェクトである「グローバル人材に向けてのリカレントなモジュール型学習プログラム」の代表であった吉本圭一氏（九州大学教育学部主幹教授）から「成長分野等におけるプログラム開発のための4つの問い」の投げかけがあった。そこで、この問いへの本プロジェクトとしての回答を以下に記す。

課題1) 成長分野等における人材のポートフォリオとそこでの人材ニーズの把握

人材ポートフォリオに関しては本章第6節第2項に記載した。また、そこでの人材ニーズに関しては第2節に詳述した。

課題2) 基本となる学校における知識・技能・コンピテンシー等の育成の目標とその方法論を示したカリキュラムマップ

専門学校（専修学校専門課程）の調理師養成施設2年制のカリキュラムマップを本章第5節に記した。その際、調理業界のニーズに応えた人材養成には、カリキュラムマップも重要であるが、学校行事等や同窓会活動といったカリキュラム以外の学校教育プログラムも重要であることを記載した。

課題3) 人材ニーズとカリキュラムマップを結びつけるための課題の検討とそこから取り組む実証講座のモデル提示

人材ニーズについては本章第2節に詳述したが、新人に求められる人材ニーズが今後の調理業界の変化・発展に対応できるかどうかは調査研究委員会及び実施委員会でも疑問視する意見が多かった。将来の業界を担うことができる人材ニーズを、一般的なアンケート調査の結果を単純にまとめるだけでは把握することは困難であると言える。

本プロジェクトの実証講座である「どんぶり調理モジュール」は、昨年度の調査研究委員会での検討の中で産業界からの意見で提案されたものである。これについては、具体的なシラバス及び副教材を完成することができ、その有効性を実証講座で確認することができた。

課題4) 人材養成プログラムのレベル設定における国内外の参照規準

この問いに対しては、本プロジェクトでは検討していない。現在のわが国の専門学校（専修学校専門課程）1年制及び2年制、高等学校、高等専修学校（専修学校高等課程）などの調理師養成教育が、欧州資格枠組み（EQF）、豪州資格枠組み（AQF）のどのレベルに相当するかを比較する必要がある。